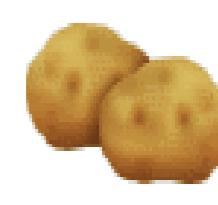
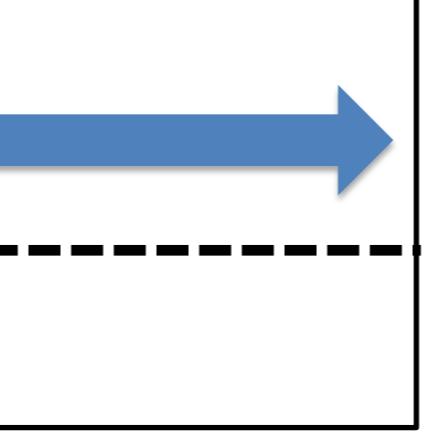
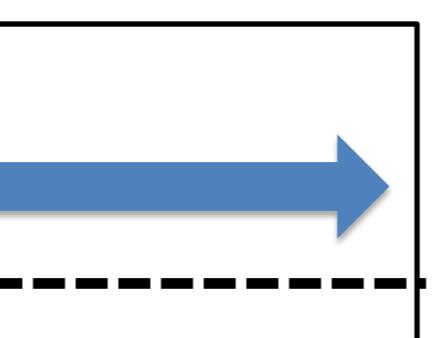
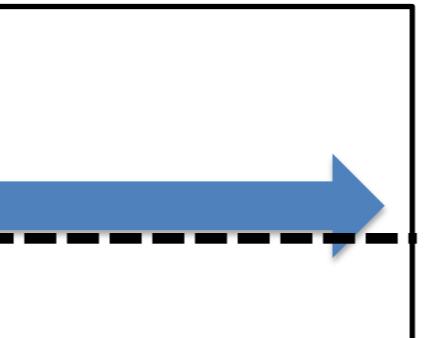


## 1 主要野菜の生産出荷状況

種類	1月の価格情報				2月の価格情報				入荷量及び主要産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し				「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額			生育及び価格の3月上旬までの見通し						
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		平均価格	今後の価格水準	平均価格	今後の価格水準			
葉茎菜類	キャベツ	96.86	57 (59%)	60 (62%)	96.86	63 (65%)	入荷量: 14,244t ・主産地: 愛知(65)、千葉(18)、神奈川(12)	平均価格		・愛知産は、全般的に生育は順調で現在平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は前進出荷の影響から、平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、潤沢な出荷となっており、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるもの、愛知産及び神奈川産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。						
		92.10	52 (56%)	60 (65%)	92.10	58 (63%)	入荷量: 3,746t ・主産地: 愛知(46)、大阪(13)、佐賀(9)	平均価格								
	たまねぎ	76.15	67 (88%)	69 (91%)	76.15	74 (97%)	入荷量: 9,734t ・主産地: 北海道(84)	平均価格		・北海道産は、貯蔵物を計画的に出荷しているが、今後も引き続き平年よりやや多めと見込まれるもの、価格は平年並みまで回復していることから、引き続き平年並みに推移する見込み。						
		76.15	69 (91%)	72 (95%)	76.15	71 (93%)	入荷量: 3,620t ・主産地: 北海道(70)、兵庫(24)	平均価格								
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	252.99	229 (91%)	259 (102%)	252.99	256 (101%)	入荷量: 4,529t ・主産地: 千葉(38)、埼玉(28)、茨城(10)	平均価格		・千葉産は、生育は順調で、これまでの気温高に伴い肥大も進み、太物中心の出荷となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、病害虫の被害は見られるものの、出荷は回復してきており、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、太りも良く生育は順調なことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・千葉産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれるもの、茨城産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、中旬以降値を下げて、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。						
		473.04	348 (74%)	435 (92%)	473.04	550 (116%)	入荷量: 201t ・主産地: 徳島(27)、奈良(18)、高知(16)、香川(12)、三重(8)	平均価格								
	はくさい	64.18	36 (56%)	52 (81%)	64.18	54 (84%)	入荷量: 12,716t ・主産地: 茨城(66)、群馬(19)	平均価格		・茨城産は、これまでの前進出荷の影響により、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、これまでの前進出荷に加え、大玉傾向であるものの、品質の低下により出荷を見送っている場もあることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が平年並みと見込まれるもの、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は、平年に近づくものの、現在平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。						
		68.70	48 (70%)	68 (99%)	68.70	67 (98%)	入荷量: 4,386t ・主産地: 兵庫(27)、愛知(23)、宮崎(19)、和歌山(10)、長崎(8)	平均価格								
	ほうれんそう	338.43	433 (128%)	665 (196%)	338.43	613 (181%)	入荷量: 1,660t ・主産地: 茨城(26)、群馬(24)、埼玉(20)、千葉(18)	平均価格		・茨城産は、2月上旬の低温とこれまでの前進出荷の影響から現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、病害もなく生育は順調で気温が上昇することもあり、今後は平年並みの出荷の見込み。群馬産は、これまでの前進出荷の影響から引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、病害の発生は見られるものの、全般的には生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は2月に入って旬を追うごとに値を下げていることもあり、平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回っていることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。						
		375.38	475 (127%)	694 (185%)	375.38	604 (161%)	入荷量: 649t ・主産地: 徳島(56)、福岡(24)、群馬(8)	平均価格								
果菜類	レタス (結球)	233.85	228 (97%)	243 (104%)	233.85	258 (110%)	入荷量: 6,469t ・主産地: 静岡(33)、香川(12)、茨城(12)、兵庫(8)、千葉(8)、福岡(6)、熊本(5)	平均価格		・静岡産は、これまでの前進出荷に加え、定植時の天候不順で十分な植え付けが出来なかった場からの出荷もあり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。香川産は、これまでの前進出荷の影響に加え、最近の寒波の影響で若干の生育停滞により小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育が前進傾向であることから、今後は平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・次城産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。						
		226.75	241 (106%)	243 (107%)	226.75	264 (116%)	入荷量: 971t ・主産地: 兵庫(44)、徳島(21)、長崎(14)、香川(12)	平均価格								
	きゅうり	370.98	401 (108%)	511 (138%)	370.98	490 (132%)	入荷量: 4,781t ・主産地: 宮崎(31)、千葉(21)、高知(17)、群馬(12)、茨城(9)	平均価格		・宮崎産は、12月の日照不足などによる着果不足の影響から現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、病害も特段なく着果不良の影響も徐々に回復し、生育も概ね順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天気が周期的に変わる状況で出荷が不安定せず、今後も引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。高知産は、12月の天候不順の影響から回復し、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、宮崎産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、2月に入り下げつつある価格は、平年並みに推移する見込み。						
		350.33	379 (108%)	508 (145%)	350.33	491 (140%)	入荷量: 1,057t ・主産地: 宮崎(38)、高知(24)、徳島(21)、愛媛(9)	平均価格								
	トマト (大玉)	349.23	410 (117%)	492 (141%)	349.23	491 (141%)	入荷量: 4,843t ・主産地: 熊本(34)、栃木(18)、愛知(12)、宮崎(5)、茨城(4)、静岡(3)	平均価格		・熊本産は、最近の気温高により着色が進んだ関係で、現在平年よりやや多めの出荷となっている。今後は全般的に生育は順調であるが、曇天により日照量が少ないとから落ち着いた出荷が見込まれ、平年並みの出荷の見込み。栃木産は、全般的に生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・熊本産、栃木産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、2月に入り下げつつある価格は、平年並みに推移する見込み。						
		326.61	396 (121%)	478 (146%)	326.61	471 (144%)	入荷量: 901t ・主産地: 熊本(73)、福岡(9)	平均価格								
	なす	389.03	491 (126%)	543 (140%)	389.03	519 (133%)	入荷量: 2,001t ・主産地: 高知(65)、福岡(15)	平均価格		・高知産は、12月の曇天などの影響から、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は日照時間の増加が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。福岡産は、12月の曇天などの影響から回復傾向であるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・福岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、高知産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。						
		397.74	496 (125%)	549 (138%)	397.74	509 (128%)	入荷量: 401t ・主産地: 高知(40)、熊本(29)、福岡(16)、岡山(10)	平均価格								
	ピーマン	578.80	565 (98%)	662 (114%)	578.80	802 (139%)	入荷量: 1,513t ・主産地: 宮崎(43)、高知(21)、鹿児島(18)、茨城(17)	平均価格		・宮崎産は、これまでの前進出荷や2月上旬の急激な気温の低下に伴う生育の停滞から、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は天候に恵まれ全般的には生育は順調であることから、平年並みの出荷の見込み。高知産は、11月中旬から12月の天候不順の影響から、現在平年よりやや少なめの出荷となっている。今後は日照時間の増加に伴い、増加が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、成り疲れにより草勢が弱く、着花の低下により、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・鹿児島産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。						
		565.30	521 (92%)	634 (112%)	565.30	748 (132%)	入荷量: 301t ・主産地: 宮崎(46)、高知(25)、鹿児島(13)	平均価格								
根菜類	だいこん	79.03	43 (54%)	64 (81%)	79.03	80 (101%)	入荷量: 11,793t ・主産地: 神奈川(57)、千葉(28)	平均価格		・神奈川産は、天候に恵まれ生育は順調であるものの、出荷の自肅もあり、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、露地物からトンネル物の出荷が主体となり、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・神奈川産の出荷が平年並みと見込まれるもの、千葉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。						
		80.47	45 (56%)	62 (77%)	80.47	66 (82%)	入荷量: 3,349t ・主産地: 長崎(34)、鹿児島(26)、徳島(24)、和歌山(11)	平均価格								
	にんじん	111.16	70 (63%)	72 (65%)	111.16	87 (78%)	入荷量: 6,472t ・主産地: 千葉(79)、埼玉(6)	平均価格								

種類	1月の価格情報 (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	2月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し	「図の見方」			
		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額							
		中旬	下旬						
類 ぱれいしょ	96.99 	104 (107%)	122 (126%)	96.99 <span style="color:red">146</span> (151%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>入荷量: 8,404t</li> <li>主産地: 北海道 (69)、鹿児島 (20)、長崎 (11)</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道産は、貯蔵物の計画的な出荷となっているが、雪による輸送の乱れもないことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、11月の降雨により小玉傾向となっていることに加え、降雨に伴い掘り取り作業の遅れもあることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。</li> <li>北海道産の出荷が平年並みと見込まれるもの、鹿児島産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>			
		103 (106%)	114 (118%)	96.99 <span style="color:red">134</span> (138%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>入荷量: 2,241t</li> <li>主産地: 北海道 (54)、鹿児島 (35)、長崎 (11)</li> </ul>				

注: 1 平均価格は、過去6カ年間(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景色は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。  
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年見込、近畿は前年実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

種類	1月の価格情報		2月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し	「図の見方」			
	(参考)過去5カ年平均価格		東京・大阪市場の旬別価格							
	中旬	下旬	(参考)過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格						
洋菜類 	392.30 	369 (94%)	521 (133%)	332.22 <span style="color:red">474</span> (143%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>入荷量: 2,285t</li> <li>主産地: 愛知 (39)、香川 (21)、埼玉 (13)、長崎 (6)、福岡 (4)、群馬 (3)、熊本 (3)</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>愛知産は、現在は平年並みの出荷であるが、今後はこれまでの前進出荷の影響が見込まれるため、平年よりやや少なめの出荷の見込み。香川産は、これまでの前進出荷の影響に加え、気温の低下により肥大が停滞気味であることもあり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。</li> <li>埼玉産は、これまでの前進出荷の影響に伴い、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。</li> <li>愛知産、香川産及び埼玉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>				
	425.72 	391 (92%)	537 (126%)	350.96 <span style="color:red">491</span> (140%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>入荷量: 618t</li> <li>主産地: 徳島 (32)、長崎 (16)、香川 (14)、鳥取 (9)、和歌山 (8)</li> </ul>					
根菜類 	153.79 	115 (75%)	132 (86%)	139.51 <span style="color:red">155</span> (111%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>入荷量: 1,457t</li> <li>主産地: 千葉 (88)、埼玉 (8)</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>千葉産は、これまでの前進出荷傾向に影響に加え、最近の冷え込みにより一部で生育の停滞が見られるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。</li> <li>千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在概ね平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。</li> </ul>				
	139.51 	111 (80%)	129 (92%)	137.86 <span style="color:red">137</span> (99%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>入荷量: 235t</li> <li>主産地: 徳島 (47)、福岡 (32)、石川 (9)、奈良 (7)、京都 (4)</li> </ul>					

注: 1 平均価格は、過去5カ年(平成23~27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。  
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
3 旬別価格の赤字は、平均価格を150%以上回るもの、背景色は保証基準額(平均価格の80%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。  
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで前年実績である。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

## 2 トピック 一さやえんどうの需給動向等について

今回は、これから旬を迎える、鮮やかな黄緑色で春の到来を感じさせる「さやえんどう」の需給動向等について紹介する。

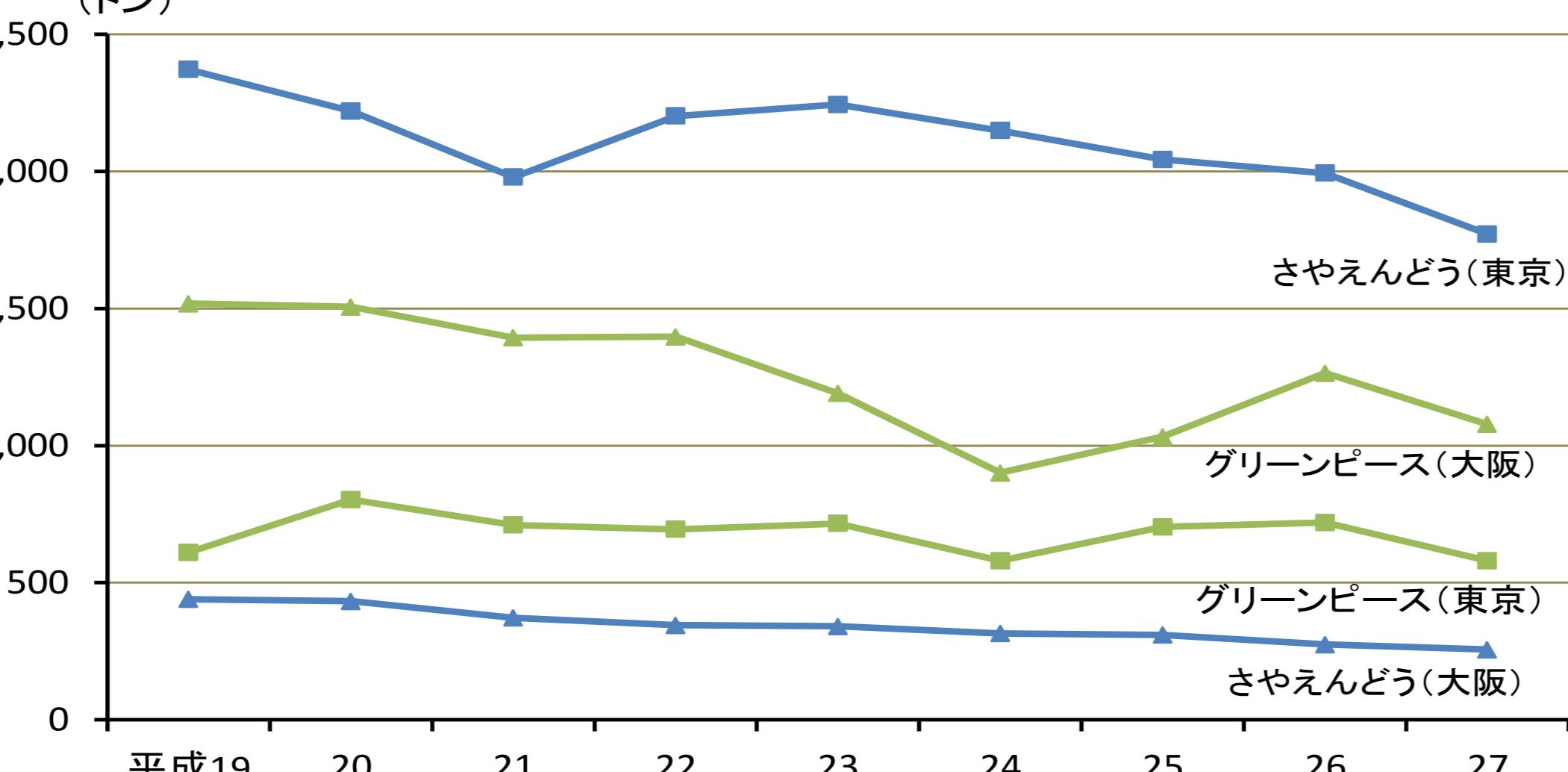
えんどうは、収穫するタイミングにより、豆苗(とうみょう) (スプラウト) 一さやえんどう (緑さや) 一実えんどう (グリーンピース) 一えんどう (豆) と、名前が変化していく、成熟するまでの各過程で味を楽しむことができる野菜である。さやえんどうは、えんどうの若いさやごとを食べるのをさがすが、さやえんどうの他にさやごと食べるのをして、米国で品種改良され、さやえんどうより肉厚で実が大きくさやごと食べるスナップエンドウ (スナックエンドウ)、同じく肉厚な砂糖えんどうなどもあり、両者とも甘みが強いのが特徴である。

関東と関西のえんどうの流通量を比較すると、関東地方では、雑煮、ちらし寿司など料理の彩りや付け合せに用いられることが多いさやえんどうが流通の大半を占めている。一方、関西地方では、豆ごはんや甘煮、和え物等のおかずとして食卓にのぼることが多いため、グリーンピース (関西では「うすいえんどう」と多く使用される) の流通量が多い。

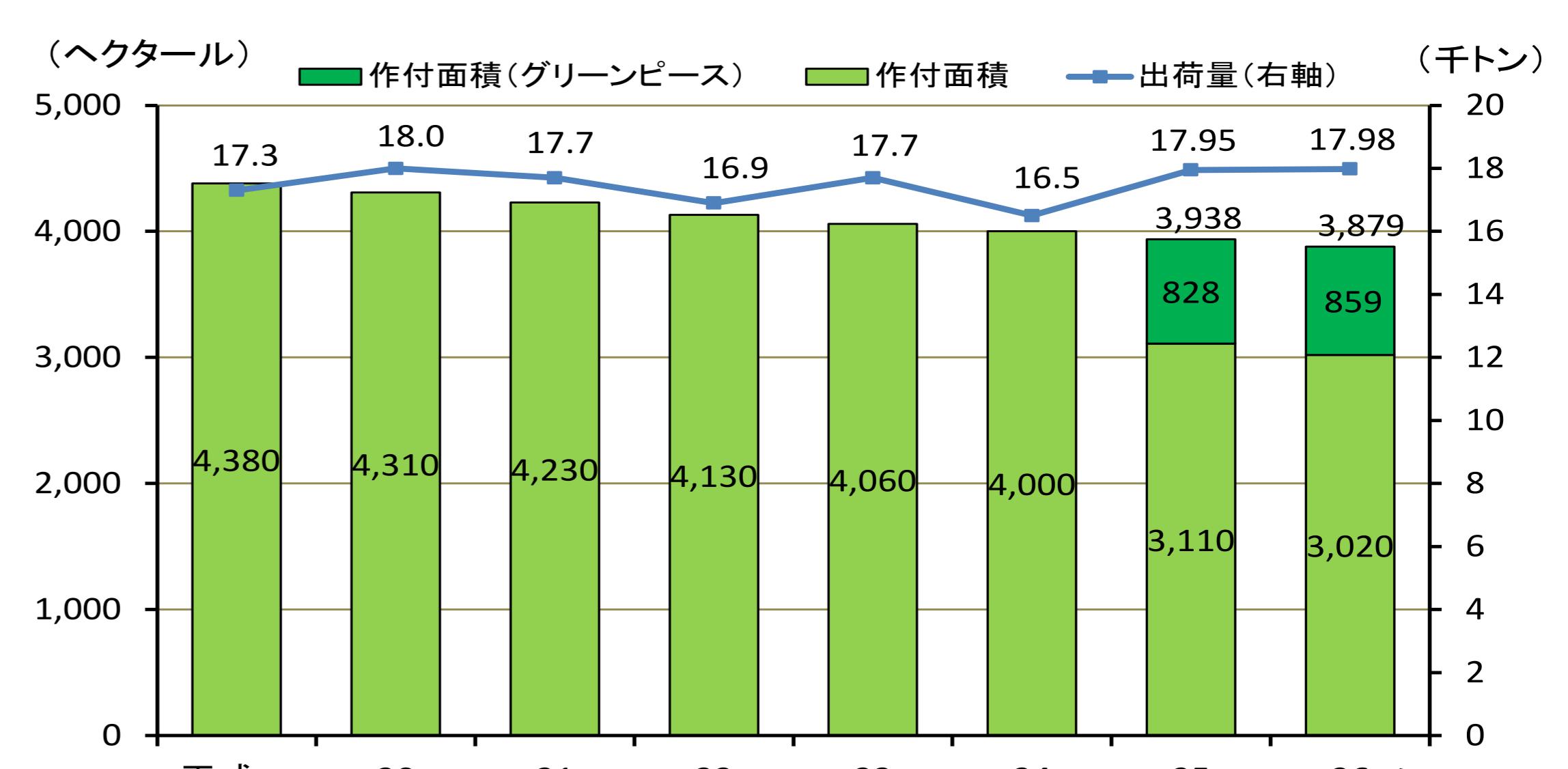
26年のさやえんどうの作付面積は3020ヘクタール、出荷量は1万2700トンとなっており、鹿児島県 (3500トン) が最も多く、次いで愛知県 (1100トン)、和歌山県 (860トン) となっている。グリーンピースの作付面積は859ヘクタール、出荷量は5280トンとなっており、和歌山県 (2400トン) が最も多く、次いで鹿児島県 (1060トン)、北海道 (265トン) となっている。全体では鹿児島県、和歌山県及び愛知県の3県で全国のおよそ5割を占めており、和歌山県は主に近畿方面、鹿児島県は主に首都圏に出荷されている。また、全体の作付面積と出荷量を19年と比較すると、作付面積は89%となっているものの、単収の向上などにより出荷量は104%となっている。主産地では、和歌山県及び愛知県が減少傾向で推移している中、鹿児島県は作付面積が121% (473ヘクタール)、出荷量が150% (4560トン)、と大幅な増加となっている。

さやえんどうとグリーンピースを合計したえんどうの輸入量を見ると、生鮮えんどうは、19年には3746トンあったものの、国産への需要の高まり等から、27年は779トンと大幅に減少している。冷凍えんどうも減少傾向にあり、近年では1万2000トン台で推移している。27年の輸入量は1万2226トン、国別の比率は、中国45% (5548ト

さやえんどうの入荷量の推移  
(東京都中央卸売市場及び大阪府中央卸売市場計)



さやえんどうの作付面積の推移(グリーンピースを含む)



さやえんどうの都道府県別出荷量 (26年)

